

平成三十年七月一日発行（毎月一回一日）
書 象 第六十六卷 第七号 通巻七五二号

書 象

日本書道芸術協会
SHO JAPAN
設立1950年
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
電話 03-5561-1111
FAX 03-5561-1112
E-MAIL sho@sho-japan.com



日本書道芸術協会

2018-7

信山流の由緒

常任理事 魚住 卿山

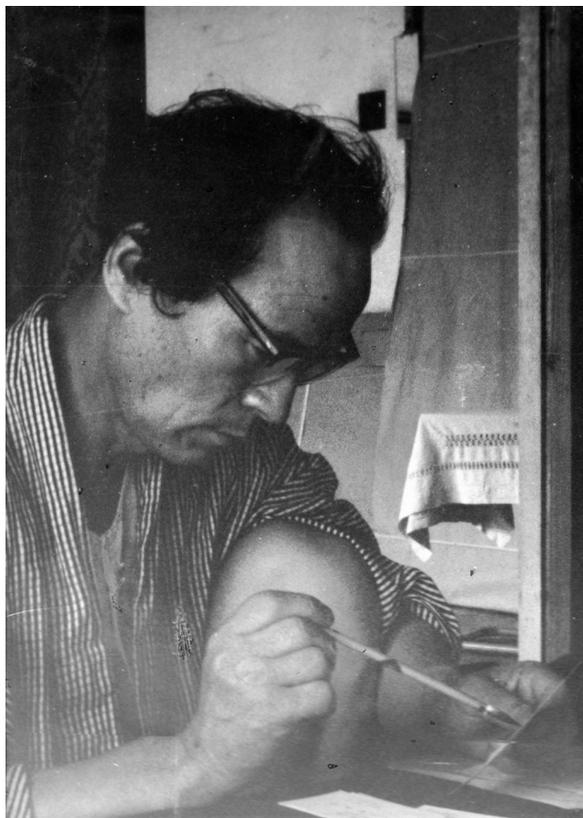
「あなたの作品はすぐ特徴がありますが、何か特別の流儀ですか。」 そんなことを尋ねられた方は、少なくないでしょう。「上條信山先生の創立された書風（信山流）で、今は書象会の先生につくと、この書風が書けます。」そう答えるのが、まずは適切ではないかと思いません。

では、上條先生は自分の書法を、いかにして作り上げられたのでしょうか。先生は若い時から比田井天来、田代秋鶴、豊道春海、尾上柴舟、江川碧潭といった、多くの大家から薫陶を受けてこられました。そして、自己の書風に明確な構造を得たのが宮島詠士（本名は大八。一九六七〜一九四三）でした。

宮島詠士は二十歳にして中国（当時は清国）に渡り、当代きっての書法家であった張裕釗（あざなは廉卿。一八二三〜一九九四）に、八年間にわたって師事しました。書法における詠士の急速な進歩は自他共に認めるところとなりました。

ただし、詠士は東京に中国語学校の善隣書院を創設して中国語教育に心血を注ぎ、書道はほんの限られた弟子にしか伝えませんでした。上條先生はまさしくその最後の若い弟子でした。

先生は張裕釗、宮島詠士によって築かれた書法を受け継ぐとともに、現代芸術としてこれを発展させるために、幾多のオリジナリティーを加え、また切り開かれました。もちろん芸術に終着点などありません。この歴史的な由緒を起点としながら、書象会の先生方によって、さらに新たな創作の世界が日々展開されているのです。



手に持った葉書に筆を走らせる上條信山先生



地に到って一に聲無し

7月20日必着。入選作のみ発表します。出品券を貼付

楷書臨書規定【臨規】
(師範・準師範・段位)

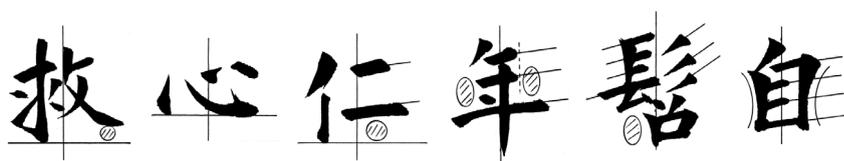
化度寺碑

上條信山先生書



自髻年。仁心救

7月20日必着
出品券を貼付



・中心線をしっかり把握する。
・横画は平行に、文字の空間を意識して書く。
・「救」は「救」の異体字)



・文字の中心に気をつけて、のびやかに書きたい。

因：左右の横画は背勢にする。「エ」はやや左に寄せる。

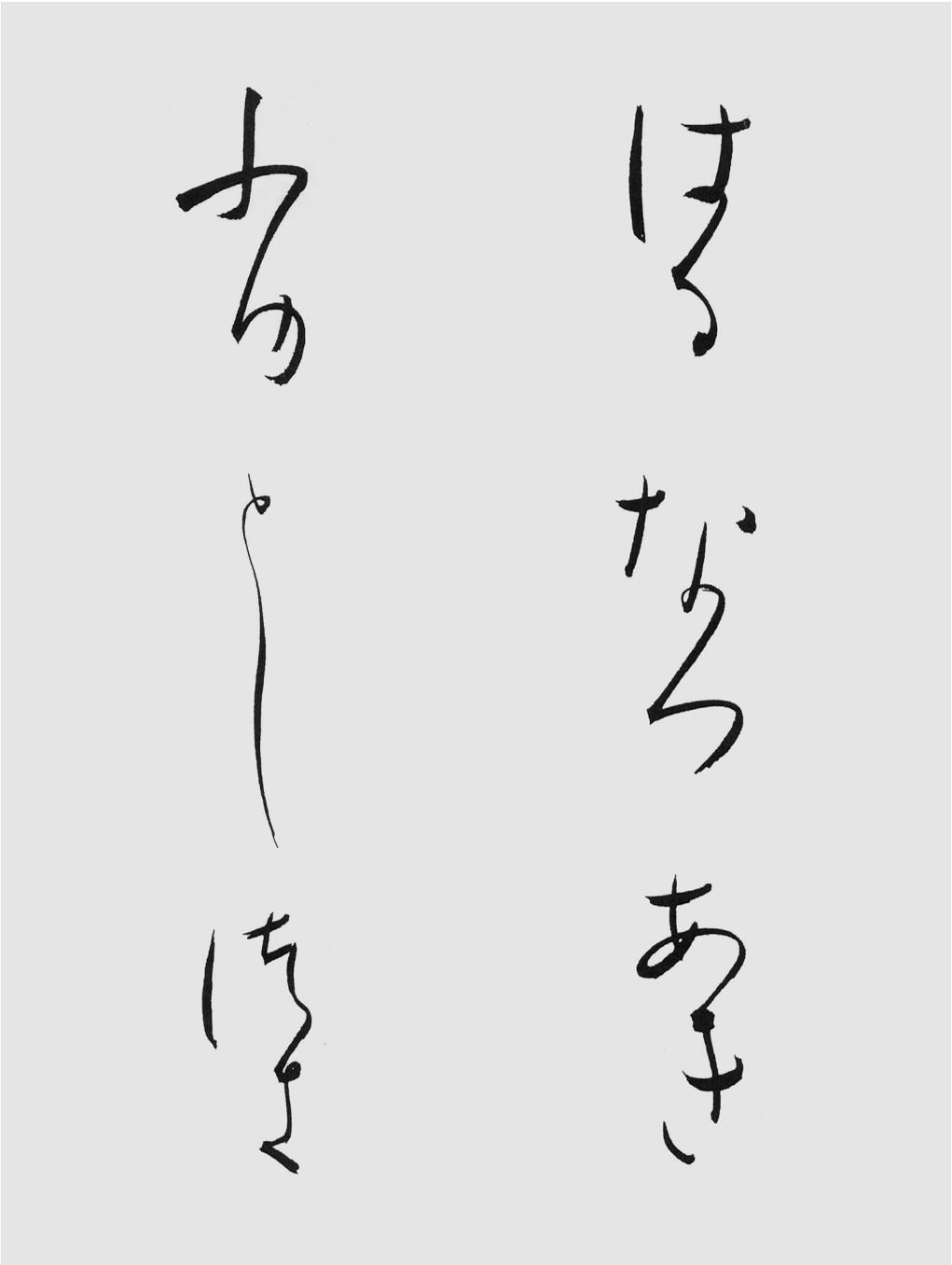


戲：字形は縦長に、旁は伸びやかに。



仮名規定【仮規】（級位）

上條信山先生書



はる なつ あき ふゆ とし つ (徒) き (支)

・一字目の収筆から二字目の起筆への連綿線は、長さや方向が異なる点に留意する。

・連綿では運筆の速度をやや速め、緩急を意識するとよい。

「はる」



「ふゆ」



「とし」



研究【研究】 「張猛龍碑」 臨書

积文（錦を）
鄴方に（裂く）。
鄴方に（裂く）。
春明好く養い、



山口啓山先生書

無我（集字）



虎井曉鐘先生書



今月のポイント 逆筆を強く当てる。文字の構造の特徴をつかみたい。

※どちらか一体を出品してください。



7月20日必着

出品券を貼付

入選作のみ発表します

隷書条幅規定【条規】

市澤静山先生書

段級位を明記のこと



露荷 清香を散ず (白居易)

・「露」の雨かんむり↓
 ・「散」の偏と旁↓
 横画は水平を心がける。

条幅随意【条随】

上條信山先生書

入選作のみ発表します

出品券を貼付



むら山の青きをしめ(免)てこの朝げ(介)

一夜とど(と)ろ(路)き(支)し雲は(八)れに(二)け(介)り (斎藤茂吉)

・横への広がりよりも縦の流れを強調する。
 ・「この朝」「雲は(八)」に墨継ぎが見受けられるが、重くならないように。
 ・「一夜」「とど(と)ろ(路)き(支)」「雲は(八)」はP14参照。

学林校間

中学一年規定 【学毛】

柳澤玄嶽先生書

花打
火上付

中学二・三年規定 【学毛】

二瓶嶽風先生書

の海
村辺

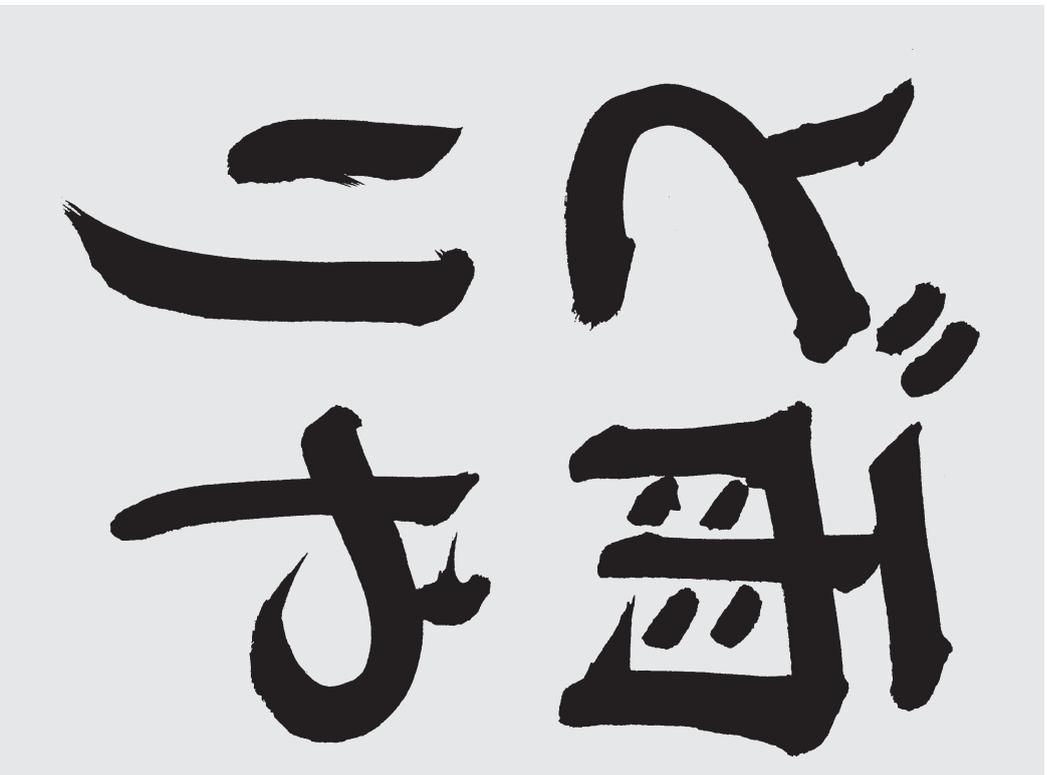
小学五年規定 【学毛】

中村巍山先生書

夏白
雲ノ

小学六年規定 【学毛】

久保妍山先生書



小学三年規定 【学毛】

杉山曉雲先生書



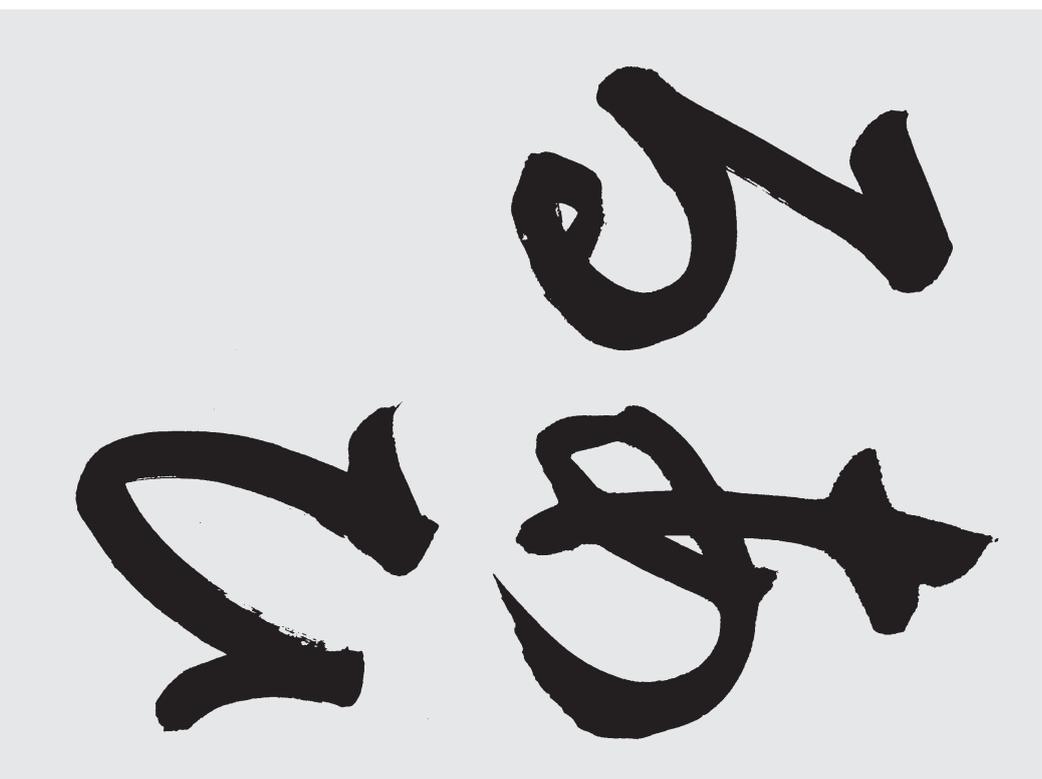
小学四年規定 【学毛】

畑中高山先生書



小学一年規定 【学毛】

鈴木草影先生書



小学二年規定 【学毛】

寺尾碩雲先生書

硬筆規定

最も多く思索し、最も高貴なるものを感じ、それを実践することが良き人生である。

一般規定【一硬】(師範・準師範・段位)

上條 信山 先生 書

最も多く思索し、最も高貴なるものを感じ、それを実践することが良き人生である。

一般規定【一硬】(級位)

二瓶 嶽風 先生 書

人間は自分自身がはりめぐらした意味の網の中にかかっている動物である。クリフォード・ギアーツ

中学規定【学硬】

藤岡 月華 先生 書

大自然は心の友たちである。この美しい自然がいつまでも続いてほしいと考えた。国木田 独歩

小・中学生随意課題【学随】

左の字句を半紙に書いてください。

表現自由。入選作のみ発表します。出品券を貼付して下さい。

小一・二年 学	目	小三・四年 学	美
小五・六年 学	有無	中学	眼鏡

手本解説

・基本 「無聲」は左図参照。

無聲

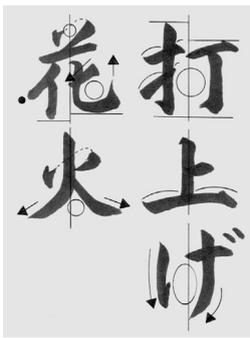
・硬筆一般規定(師範・準師範・段位) 「高貴」「感」「実践」は左図参照。

高貴 感 実践

・仮名条幅随意規定 「一夜」「とどろろ(路き支)」「雪は(八)」は左図参照。

一夜 とどろろ(路き支) 雪は(八)

学生部規定



中学二・三年

「打」の最終画は横画の真中から書く。「上」の縦画は中心線上で横画を二等分する位置に書く。「げ」は行書に調和する筆使いを。「花」は草冠の筆順の変化に注意。「火」は左右の払いを最大幅にする。



中学一年

「林」は左右の払いを最大幅にし、偏旁の組合せ方に注意する。「間」は縦横の画間を揃える。点画の接し方にも注意。「学」は冠を最大幅にする。「校」は旁の幅を広くし、文字内部の余白にも留意する。

小学五・六年規定【学硬】

小 澗 石 峯 先 生 書

夏休みをふるさとで過ごし
す人が多く、高速道路などは
混み合います。

名前 支部 年 級段

小学三・四年規定【学硬】

恩 田 静 月 先 生 書

せみの鳴き声が聞こえて
きたので、「夏が来たな。」
と思いました。

名前 支部 年 級段

小学一・二年規定【学硬】

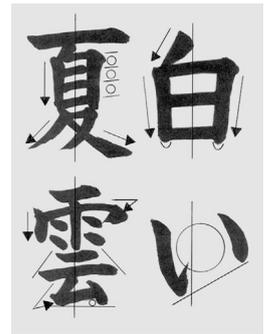
成 瀬 恵 苑 先 生 書

早	く	お	き	て	、	ラ	ジ
才	た	い	そ	う	に	出	か
け	よ	う	。				

なまえ 支部 年 級段

※出品券を貼付
して下さい。

一般（師範・準師範・段位）・一般（級位）・中学生はペン使用の
こと（中学生は鉛筆も可）。小学生は鉛筆使用のこと。
作品の大きさを下へ18 cmよこ7 cm小一・二課題下2.1 cmのマス目
の紙を使用する。小三・四・五・六課題下2.1 cm巾の野線を引く。



小学六年

「白」は横画の方向、間隔を揃える。点
画の接し方にも注意する。「い」は一画
目を立て過ぎないように。「夏」は左右
の払いの角度が重要。「雲」は冠を最大
幅にする。点の大きさ、角度を統一する。



小学四年

「水」の一画目は中心線上に、左右の払
いの位置を揃える。「の」の大回りの線は
リズムのよい連筆が鍵。「む」は結びの後
の連筆の方向に気を付ける。「馬」は横画
の画間に注意し、下部を最大幅にする。



小学二年

「あ」の二画目は中心から書き始め、大
回りの線の最高点は中心より右。「ひ」
は中心で深く折り返し、左下へ進む。
「る」は下部を幅広くして中心で結ぶ。



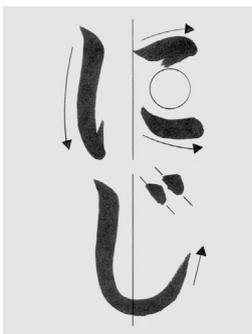
小学五年

「海」はサンズイのバランスに注意し、
旁を幅広くする。「辺」は最終画の長さ、
方向が重要。「の」の概形は円を意識する。
最高点は中心。「村」の一画目は右上がり
にし、偏の右端は揃える。縦画は垂直。



小学三年

「雨」の左右の縦画は内側に向ける。点
の長さ角度を揃える。「や」の一、二画目
は筆脈を意識する。「ど」の二画目、大回
りの線の角度に注意。「り」の二画目は縦
気味に、払いは中心線上を目安にする。



小学一年

「に」の一画目は外にふくらむように、
二、三画目の向かい合う線の角度・長さ
に注意。「じ」は中心より左から書き始
め、回りの線では連筆の速度は抑えめに。

古典研究シリーズ ④②① 【古典】

温泉銘 唐六四八年

太宗 (五九八〜六四九年)
フランス国立図書館蔵 (拓)

今月のテーマ

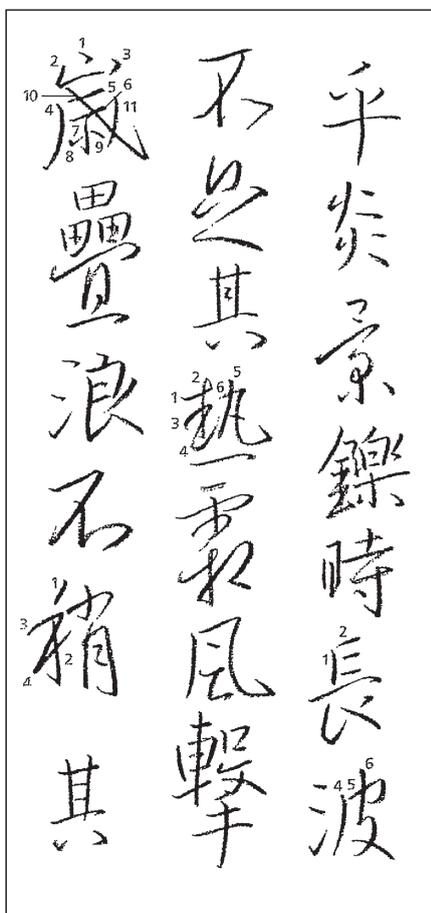
写実的臨書

中字 (四字〜六字)

書き方

- ① 文字数を間違えないで出品して下さい。
 - ② 続き文字でなくても構いません。
 - ③ 落款を入れて下さい。
 - ④ 作品の表左下に、支部名と氏名又は号を鉛筆で記入して下さい。
- 古典研究の出品券を貼付して下さい。
- (編集部)

不鮮明な文字が見受けられますので筆跡を硬筆で示しました。参考にして下さい。この「温泉銘」の字形は縦長で引き締まり、線には抑揚があります。線の太さと運筆のリズムに注意し、大きな動きで書くことを心がけましょう。



〔釈文〕平炎景鏢時。長波不足其熱。霜風撃歲。壘浪不稍其

— 信山先生の自伝 —

「硯上の塵」を読む64

一九九〇年（平成二年）八月、上條先生の書道生活において節目となる作品を可能な限り集めた「上條信山先生従事書法芸術六十年展覧」が北京で開催されました。会期中、上條先生にとっていまひとつ大きな収穫がありました。それは宮島先生が張廉卿と同居し、その最期を見送ったというゆかりの故居を、西安城裏においてほぼ見定めることができたことでした。

張廉卿と宮島先生

西安へは、私はこれまで何度となく訪れる機会があった。そのたびごとに張廉卿故居が現在も残っているのかどうか、もし現存しているものならば、是非とも訪問したいものだと思いつつも、手がかりの乏しさから、実現に結びつけることができなかった。どうしてもあきらめることができない。展覧会期間中ではあったが、私は思いきって西安まで足を延ばすことにした。

西安空港に到着すると、売店で折よく『西安市区地図冊』（西安地図出版社）なる区分地図を見つけた。中国ではこの地図を見つければと珍らしい。しかも、郊外の地理や交通図、文物の詳しい分布図までも備えたとても親切なものであった。

西安の張廉卿の寓居は張公館といい、西安城内の草敞巷というところにあったということである。地図を一頁一頁、丹念に調べていく。

どうしても草敞巷が出てこないが、気がかりになったのは、西安城西南部にある草場巷という町名であった。少し似た名であるので、それを中国国際旅行社西安分社通訳の付西琳女史に尋ねてみる。そうすると彼女は目を輝かし、草場巷はかつての草敞巷に間違いはないという。

まず草場巷は中国語発音では cǎo chǎng xiǎng となる。ところが草敞巷も cǎo chǎng xiǎng で、全く同発音なのである。中国では解放後、文字の合理化が計られ、同発音で頻度数の少ない字は、多い字に置きかえられることがしばしばある。これもその例だということである。

胸が高鳴った。翌日、私は数人の者と車一台で草場巷に向かった。この訪中を一貫して指揮していただいた河北省旅遊局長王元氏、それに付女史も同行してくれた。

草場巷に着くと、路上でくつろぐ一人の老人に、このあたりに百年程前、張廉卿という高名な学者、そして宮島大八という日本人の弟子がいたということが伝わっていないかと、ためらいながらも尋ねてもらった。すると老人の返事は明快であった。確かにそういう話を聞いたことがあるというのである。他の人にも聞いてあげようと、近所の年寄り数人を集めて問いあわせてくれると、やはり、口々に同じような返事がいきいきと返ってきた。

この近辺は清代以来の古い街並みが続き、北京に見られる四合院しゅういんのような豪壮なものではないが、通りを挟んで長い壁が続き、そこに個々の棟々の奥まりがのぞかれる。質朴な中に、私はその歴史の重さを十分に感ずることができた。どこからか、張廉卿と宮島先生の話し声が聞こえてくるような気がして、感慨のこみあげるのを禁じ得なかった。

第57回 書象展

会期 6月14日(木)～24日(日)
 会場 国立新美術館2階C・D

夜はふたや
 森の木や
 采はうま
 草の葉や
 赤いかわい
 花にま
 黒いま
 着てけ
 私にだけ
 ときない
 私の上
 白いの
 野口 虹汀



野口 虹汀

桜花賞

冒城朝雨電 輕塵客舍着、柳色新 勸君更盡一杯酒
 西出陽關無故人 廣武城邊逢 著春狂 陽歸客 淚沾巾
 花繁、常、山島楊柳青、渡水人、傷心、嗚、煙、百官、何
 日再朝、天、秋、槐、葉、落、空、宮、衰、凝、碧、池、頭、奏、管、絃

白樂王、直、道、煙、薩、石、洞、間、禁、情、多、旅、痕
 長伴、日、雲、時、有、跡、不、通、而、無、心、執、可
 攀、林、孤、夜、坐、圓、月、上、寒、山、秀、雪

船、歌、榮、徹

出峽復入峽 兩崖插青冥 中流遂狂飆 奔騰萬馬聲 下灘梭一擲 觸石危檣傾 逆
 挽勞百夫 十步九倒行 力盡聽所止 刺篙就迴汀 變此民居壯 凌空駕軒楹 宿雲
 出洞戶 古木撐蒼屏 鸞鴉或挂樹 怪鳥時一鳴 柵蘿上絕壁 山風動冠纓 呼童拾鉗
 石 信手板雜英 興幽志涉險 觸目多怡情 前途苦逼仄 絕境難久停 過午蒙日晦
 磊落見數星 崖黑巖突 帶變語頻丁 寧移舟近湍 激拍枕聲 鏗鉤 珠虹



小林 貞月



桑島 秀雪



來司 信博



北井 珠虹

東閣官梅動詩興還如何
 避在揚州此時對雪遙相
 憶送客逢春可自由幸不
 折來傷歲暮若為看去亂
 鄉悲江邊一樹垂：歲朝
 夕作人自白頭 西光



伊藤 西光

堅性愛我植之柳水半城東春柳斧所
 截然而種之長短既不一高心隨所宜
 倚岸埋天幹臨流掃小枝松柏不可為
 被稱困難勢不少種比對比樹葉榮
 滋如草根上可治成陰況非蓬三年
 木離節可以見依之種罷水邊總仰
 財何自思富貴本非空功名須行
 時不種不種柳端世欲何之見心



宿谷 硯心

曉月暫飛千對裏秋
 河隔在數峰 西光

神劍拂白醉

幽竹盡懷太古致春
 山澗若少年人 光紗

波羅 室多



波多野晴嶽



高平 光紗



関澤 劔山



早乙女墨光

奨励賞

經旬苦焦暑一雨快披襟萬綠烟生
對初絃月照琴窗風人意定移箏竹
香深卽此新涼夜可知造物心翔山

潮音閣下飛舟航四首凌雲隨渺茫土俗漸臨巴子國江派
運接楚人鄉煙熏細紫琴蕝葉蕭疎天外數眉如送
客晴窗十片白毫光鳩茲北面諷舟亭天際歸帆望杳冥
竹陰中孤塔白樓臺缺東數峯青緒山人吉生春岫江水潮
迎波蒼汀更憶于湖颺鞞跡吳波不動客揚舸

六月灘聲如猛雨香山榜北暢師房更深起凭闌千在瀉耳
溪篔簹面涼地僻門深少送迎披衣問古養幽情秋庭不
掃携藤杖雨踏桐桐黃葉行聞上江隈還獨坐北風霜氣
夜棧：回首深浦停舟處荻蘆花中一點燈和春

魯縣令杜僧壽汝陽縣令明景欣鄆
縣令韓盛陽平縣令衛安族并董文
定新崔魯郡士望等孔文 静志

邦間有名雖黃金未應無熱郭氏違父憂寢食過禮泣而情深
假使曾樂更世寧異今德既傾乾覆唯待坤悲冬溫夏清晚夕
承奉家貧致養不辭採運之勤年卅九丁母艱勺飲不入偷魂
七朝精力盡思備之生死脫時當尼無愧 雅華



田口 雅華



近藤 静志



工藤 和春



上條 哲山



今井 翔山

此和の農聖を招田喜一は祖父喜七の生き方に感銘を受け世に残る遺言を
土産とすると哲言の理想の農場建設と青年の育成とも目指し心魂を
尽くして挑戦した幾多の逆境試練を生き抜く心に響く珠玉の言葉
と訪ね出した人並み外れた生き様を驚き通した信念の人である
逆境を生きた農聖招田喜一は学ぶより 平成二十年三月日記より

天寒鳥已歸 月出山更靜 土室延白光 秘門取跡影 躑躅攀日短
語樂寄夜永 明燃林中薪 暗汲石底井 大帥京國舊 德業
天機乘從來 未支許遊興 趣江湖迴數 奇譎閑塞道 廢存莫顯
何知我馬 問後接塵事 屏幽尋豈一路 遠色有諸嶺 休亭

疎々殘砂看似空 更無一對只聞風 六山初覺登山愴 身落
蕊々辭夢中投宿 羈亭信似歸 振毫書句不斜暉 腕
頭空得山靈助 不怪雲煙紙上飛 我歲神死殆不待遊期 今日
得時宜山中勝景 無遺漏一 收未入小待 未華

出雲三年常遊 千萬里行江青草 合入塞紅塵 愁絲
藥空求仙讀書 兼詠史 今日歸 寒山枕流 兼洗耳 下禪
幽居地 天台更莫言 猿啼 鈴霧 冷嶽 色草 門連 折葉 覆
松室 開池 引洞 泉 已日 休 萬事 采 厥 度 錢 年 華 凍

全風萬里思何盡 玉對一窓秋影 寒獨掩柴門 明月下 淚流香袖
倚欄干 紅燭秋光 冷畫屏 輕羅小扇 撲流螢 階夜色涼如水 坐
看牽牛織女星 監宮引出 暫開門 隨例須朝 不是思銀鑰 却收金
鎖 合月明花落 又黃昏 畫屏離宮院 中女荒 插城 外 墜 葉 少
年入內教 歌舞不識君 王到老 踏 社 投 詩 四 首 保 茂



藤井 愷花



平川 華凜



中村 秀華



長田 詠李



中川 汀松



恩 田 静 月



吉田 煌扇

名溢寰海功輝動植其誰由茲哉惟大將軍矣公諱文
 字寸大夫行內給事公前皇朝金紫光祿大夫行內
 常侍七紹之德是使金鋪核慶玉璽承官長戟
 於司宮高門懸於寺伯公局就於孫年煌扇書



山下 木華



俊英選拔五人展



宮 本 耕 成

道徳隆秋二
 外ハ花ガル
 道界才時
 祀者楚絶
 公者為牛元
 集者之及也
 夕黄シ百世
 皇道神マヲ
 春ハ又ハ之儀
 善野事シ能ク
 愛富シハレシキ
 豊カ給日中ニ
 二八年 春 荻田光山

来夜風雨雷并
 拂来也前殿
 及物高千物
 歌舞昇新風
 寵羨外春寒
 賜錦袍
 荻田光山
 二八年 春

荻田光山

鳳
 張王勅滕王湖序
 之二句 耕成

八月初高風怒號卷我屋上三重茅飛
渡江灑江郊高香桂冒長林稍小者飄
轉沈塘坳而村僻童欺我老無力不能

對面有盜賊公然犯茅入舍去層層口
燥呼不得歸乘倚杖自歎息俄頃風
定雲黑色秋大漠已向昏黑布衾多年

冷似鐵姑兒鬼臥踏裏瑟林頭屋漏無乾
震而脚如麻未斷絕自怪亂少睡眠
長夜衣衾濕何如撤安得廣厦千萬間大

庇天公寒士俱秋顏風雨未動安如山鴉呼
何時眼前笑兒鬼此屋吾廬獨破受凍
死亦多劍外忽傳收蓟北初聞涕淚滿

衣裳却看妻子能何在漫卷詩書喜欲
狂白日放歌放飲酒看青燐伴每逐野
即危巴峽寒巫峽便入襄陽何洛陽

洪江皎雲

峨眉山月半輪秋影一平卷以流夜渡漢向三峽
思君不見以浙州南隄吳酒歸空香玉振盛來珠玑
光但使之能歸多不知何處是他鄉口送香爐生紫
煙遙看漢市在前に飛仙宮以三千天疑是銀河

不問其矣再口欲渡岷山而倒著接離氣以建襄陽山兒
齊拍手相對爭唱白銅鞮傍人借問笑何事吳越山
前疎似漢天門中新變注湖碧多未流至北迴兩岸青
山相對出孤帆一片日邊來舊苑荒臺楊柳新 姜夔

清唱不勝春只念惟自而注月會遊吳王宮裏人朝王
句踐破吳歸 義士遊鄉盡錦衣宮女少花滿子殿
思多惟有鴛鴦飛京我公者昨日之日不可而亂我心
者今日之日多 煩憂長瓜萬里送秋雁對此何以能高

榜蓬萊文章建奇骨中月小謝又隨我俱陳遠總壯
思飛欲上青天覽日月神刀斬以之 不學保銷愁
更愁之生夜苦不稱意明朝散髮弄高身揚衣荷盡子
規啼 聞道龍標過五溪我寄愁心與明月隨君直到

夜郎西陳王昔時宴平樂斗酒十千恣縱謔走何為
六少錢短陌沽取對君酌五花圖千金裘呼兒騎出換
美酒與爾同銷若君愁誰亦玉台踏飛聲散入玉瓜洲
海城此夜少年中 同折柳何人不怨的圓隴 壬午年羊景

鈴木草影

「高田墨山先生を偲ぶ会」に寄せて



墨山先生の作品に導かれ会場へ

五月六日、「高田墨山先生を偲ぶ会」が、京王プラザホテルで開催されました。会場に入る廊下に展示された墨山先生の作品、そして「偲ぶ会」で上映されたビデオでも、改めて墨山先生の作品を回顧する良い機会を持つことができました。

ビデオの中に、一九九〇年に開催された最初の個展について上條信山先生がご高評される懐かしい場面がありました。「純朴な純粋な方であり、その書はあまり飾り気がなく質素」、「一つも自分勝手なところがない。法的的にまとめられている。」などと、墨山先生のお人柄と書について明快に語られていました。

私たち門下生は、先生が次にどんな作品を発表されるのか、いつも楽しみにし、またそれを拝見するたびに新鮮な驚きと感動を覚えたものです。最後まで進化し続けた書は、先生の真摯な姿勢の表れだったと確信しています。信山バリの本流を行く清冽な書でありながら、何か心温まる気持ちにさせてくれるのは、先生の優しいお人柄ゆえだったのではないのでしょうか。そんな墨山先生にご指導頂いたことを誇りに思います。どうも有り難うございました。

(泉澤 禾苑記)

第5回書象会熊本支部展

会期 三月十三日(火)～十八日(日)
会場 崇城大学ギャラリー
支部長 吉澤蒼雲先生

三月十三日(火)から十八日(日)の六日間、崇城大学ギャラリーにおいて第五回書象会熊本支部展を開催しました。

田中会長を始め理事の先生方には、作品を御協賛いただき深く感謝申し上げます。今回は、熊本地震後から初の展覧会を開催することができました。支部会員一同、公私にわたり多くの苦難を乗り越え、また周囲の皆様にも多大なるご支援を賜り、約三年ぶりの展覧会開催に至ることができました。作品の数、質共に展示に際して心配することもありませんでしたが、それぞれが三年ぶりの思いをこめて作品を制作し、出品いたしました。会員作品と同時に、会員の指導生徒(学童・高校生・一般等)の作品も展示し、書象会の教えである「書道教育への貢献」も実践できた展覧会となりました。

今回の展覧会は、熊本支部の新たな出発とし、今後も更に研鑽し、書活動に邁進していきたいと思っております。

(志垣嘉納子記)



力作が整然と並ぶ



なごやかな会場風景

第40回信州書象展

会期 五月十八日(金)～二十日(日)
会場 松本市美術館市民ギャラリー12F
主催 信州書象会

若葉の美しいこの季節に松本市美術館において、第四十回信州書象展を開催致しました。爽やかな快晴に恵まれ、折しも当美術館では、世界的前衛画家草間弥生展が開催されていることもあり連日大盛況、沢山の入場者で賑わいました。

中央には信山先生のお若い頃の作品、その左右に張廉卿先生の貴重な二幅の軸、宮島詠士先生の作品が飾られ、賛助出品の先生方の作品、信州書象会の役員の先生方の作品が並び、会員百三十余名の作品も整然と並べられ、すばらしい会場となりました。

最終日には、総会と祝賀会が開催されました。来賓として唐澤かづ子様、田中節山先生、大澤城山先生をお迎えし、すばらしいお励ましのお言葉を頂き、会の雰囲気も一気に温かく盛り上がりました。

祝賀会を終え、三人の先生方に一人一人作品について批評をして頂きました。的確なご指導に改めて自分の作品の日頃の研鑽の成果を確認する良い機会となりました。

かつてこの展覧会の初めの頃、信山先生が一人一人の作品をユーモアたっぷりに批評して下さいました。信山先生ゆかりの地であるこの美術館ならではの企画内容であり、先生の魅力にどっぷり漬った貴重な一時となりました。

爽やかな信州の初夏、書道三昧の三日間、一人一人の更なる成長を誓うよい機会となりました。

会の運営に尽力下さった方々、ご指導下さった先生方、ご来場下さった多くの皆様に心より感謝申し上げます。有難うございました。

(上條恵香記)



市澤先生の作品解説に聞き入る



出品者全員で記念撮影 (中央左よりご来賓の大澤城山先生、田中節山先生、唐澤かづ子様)



信山記念館では上條先生の作品を鑑賞

書展昇格者紹介

◆読売書法会理事

酒井 溪月 坂牛 静心

◆読売書法会幹事

鈴木 香扇 中村 秀華 橋本 幸楓
余語 元祥

◆読売書法会評議員

岡野 冷泉 菊池 龍節 児玉 葉節
齋藤 盈月 鈴木 花仙

◆読売書法会会友

宇野 壺裕 岡本 秋麗 古賀 沙苑
鹿谷 光琴 竹本 谿山 長田 詠李

◆謙慎書道会常任理事

小室 墨汀

◆謙慎書道会理事

小田切 静唱 來司 信博 桑島 秀雪
小林比出代 齋藤 盈月 桜井 石風
布下 真静 野口 虹汀 林田 翠山
原口 華煌

第35回読売書法展

役員・事務局委員一覧（書象会関係）

◆企 画 委 員	田中 節山 市澤 静山	◎印は主任、○印は副主任
◆東京展 総 括	田中 節山	
◆東京展実行委員長代行	市澤 静山	
◆同副実行委員長	内藤 望山	
◆審査部長代行	田中 節山	
◆特別賞選考委員	田中 節山	
◆本年度審査員	恩田 静月 樋口 玄山	
◆審査部委員	杉山 暁雲 山口 啓山	
◆電 算 部	中内 真意	
◆作 品 部	坂牛 静心 田中 紫花	
・ 役員 搬 入	宮本 耕成	
・ 公 募 搬 入	藤森 大節 小淵 石峯	
・ 各 展	◎柳澤 玄嶽 小室 墨汀 杉山 窓影	
・ 搬 出	畑中 高山 寺尾 碩雲 竹内 藍山	
◆頭 部	◎山口 啓山 藤森 大節	

特待生紹介

（学年は試験合格時のものです）

大好きな書道



山 下 典 剛
溪月支部 中一

僕は、字が綺麗な兄に憧れて保育園の時から、書道を習い始めました。先生はいつも、優しく指導して下さい、集中して字を書くことが大好きになりました。特待生になることができて先生には感謝しています。有難うございました。

支部長先生より一言 部活や塾の後でも、休まず一人書き込んでいる姿は、皆のお手本です。次の目標に向け、がんばれ!!

目標達成



伊 藤 桃 香
土筆支部 中三

私は、小学三年生から習字を習い始めました。これまで目標にしてきた特待生になることができて、とても嬉しいです。丁寧に教えてくださった宮寺先生には、すごく感謝しています。これからも頑張ります。

支部長先生より一言 合格おめでとう。高校生になっても続けられるとのこと嬉しく思います。今後の躍進に期待します。

感謝



中野支部 中三
古 田 華 乃

小学校からの努力が実り、目標だった特待生になることができてうれしいです。先生のいい教えがあったからこそだと思います。支えて下さった家族や先生、ありがとうございます。

支部長先生より一言 遠くから通い、またパレーとの両立で苦労しましたね。何事も最後まで頑張る姿勢は立派です。

特待生紹介

(学年は試験合格時のものです。)

目標達成



珠悠支部 中二

立川 茉 弥

私は今回毛筆、硬筆の両方を合格できてとても嬉し
いです。特待生は習い始めた時からの目標だったので、
達成でき、頑張ってきた良かったです。これからもつ
と上達できるように頑張りたいです。

支部長先生より一言 吹奏楽部と塾と両立し、目標を
持って真面目にやりとげる茉弥ちゃん。これからも多
くの経験を通し、更なるステップアップを期待してい
ます。

特待生になって



高社支部 中二

小坂 早 希

私は小二の頃から習字を習い始めました。コツコツ
と稽古を重ねてきたことで特待生になることができま
した。これから更に良い字が書けるように頑張ります。
指導して下さいました先生、本当にありがとうございます。
支部長先生より一言 合格した作品は写真版で紹介さ
れました。おめでとう。大変喜ばしい事です。自信に
繋がりますね。

念願達成



美二支部 中一

佐 宗 美 優

私は幼稚園から書道を習い始めました。中学生にな
り部活と両立する事が大変でしたが挫折せずに続けら
れたのは先生のご指導のおかげです。次は硬筆でも特
待生を目指して頑張ります。

支部長先生より一言 いつも弟といっしょにとっても仲
よく頑張っている美優ちゃん。次は硬筆がんばれ!!

特待生



霞墨支部 中二

安 田 舜 佑

小学校低学年の頃から続けてきた習字も、三度目の
試験で遂に特待生になることができ、とても嬉しいで
す。ご指導してくださった先生に感謝し、これからも
頑張っていこうと思います。

支部長先生より一言 小さい時より、しっかりとした
考えを持っています。努力が実りましたね。心から、
おめでとう。

感謝



大象会支部 中三

古 川 葵

私は小学校六年生のときに習字を習い始めました。
同じ学年の他の子よりも遅く始めたので、不安でいっ
ぱいでした。今度、こうして特待生になることができ
て本当にうれいしいです。先生、ありがとうございます。
支部長先生より一言 小六からのスタートでしたが、
真面目に通い、持ち前の集中力を発揮して見事に特待
生合格おめでとう。

継続は力なり



千曲支部 中一

庄 村 弘 美

小一から始めて、気づけば七年目です。二冠達成ま
で、毎週通い続けることができたのは、先生のあた
たかいご指導、家族の支えがあったからです。感謝と
ともに、これからもさらに上を目指して頑張ってい
きます!!

支部長先生より一言 大人顔負けの筆使いで美しい字
を書きます。家でも沢山練習し頑張りましたね。合格
おめでとう。

喜びと感謝



シーバス支部 中三

山 下 紗 和

小学六年生の時、急に書道を習いたいと思い、始め
ました。色々な字を練習する中で先生が丁寧に教えて
下さったので、字を書いている時間がとても楽しい時
間になりました。高校へ行っても続け、更に上達させ
たいです。

支部長先生より一言 短期間でよく頑張りましたね。
紗和ちゃんの努力あってのことです。高校へ行っても
是非続けてね。

努力が自信へ



中央支部 中三

平 野 夏 輝

習字を始めて八年、今では字を書くということに自
信がつくようになり、特待生にもなることが出来まし
た。先生から沢山の指導をしていただいたおかげで達
成出来ました。引き続き、精進したいと思います。
支部長先生より一言 特待生合格おめでとう。確実な
字形と運筆が見事です。この調子で行書も益々頑張っ
ていきましょう。

二冠達成



聖支部 中三

宮 下 遥

小学校二年生から習字を始め、念願の二冠を達成す
ることが出来ました。お忙しい間をぬってご指導いた
だいた先生。応援をしてくださった家族のみんな。本
当にありがとうございます。これからも精一杯頑張
ります。

支部長先生より一言 部活、受験の中での合格おめで
とう!いよいよ高校生、この粘り強さと努力を忘れず
に続けて下さい。

少年少女のページ 「わたしの会の仲間達」

杉支部 小五 岡本 優奈



硯で墨を一生懸命に擦り、将来は書道甲子園に袴で出場したいと言う落ちつきのある優しい女子です。その時まで、先生も応援したいと思っています。

溪月支部 小四 藤田 めい



いつも明るく、お手伝いが大好きです。難しい課題でも挑戦し続けるがんばり屋さん。雪が降っても、しっかりと歩いて通って来ます。いつも応援しているよ。

宮川支部 小六 佐藤 七海



「しん」のしっかりした七海さん。家のお手伝いもしっかりして、小さい子の世話もちゃんとできます。習字にもその事がよくあらわれています。強い線の字で、始筆も終筆もていねいに書きます。スキームとどん力をつけています。たのもし。

大田支部 中一 副島 聡人



サッカー、スイミングと、スポーツに励み、書道でも成果を挙げている聡人君。学校の書き初めでは、二年連続でクラス代表に選ばれる快挙でした。

湊支部 中一 永井 佐恵花



大好きなお姉ちゃんと一緒に習いたくて、二年生から始めました。学校では音楽クラブで打楽器に打ち込んでいます。何事も頑張り、成長が楽しみです。

名東支部 中一 脇田 彩愛



三人姉妹の真ん中。よく気がつき背の高い彩愛さんはバスケットで活躍。幼稚園からバレエと習字を習い、堂々と大きな字でセンス良く仕上げ、七段の腕前です。

美業支部 中一 細矢 莉代



学校の帰りに一番早く教室に入りお稽古を始めます。お習字の他に、ピアノ、ヴァイオリンという音楽の好きな少女です。今後の成長が楽しみです。

龍文支部 小五 駒ヶ嶺 凜



何事にも積極的な凛ちゃん。年長で始めた書道もより高みを目指し週二回のお稽古に変更。真剣に努力を重ねる姿勢が立派です。今後の成長が楽しみです。

大阪支部 小三 藤江 卯



幼稚園の時からお稽古に来て、いつも静かに集中している姿が印象的です。学校では図工が好きで、ダンスも頑張っています。整った作品を書きます。

若竹支部 小六 小山 央洗



幼稚園の頃から通っている央洗君は、毎年皆勤の模範生です。空手、珠算も優秀で文武両道を極めてほしいです。大勢いる六年生の頼もしいリーダー的な存在です。

山愛支部 小四 高橋 康旗

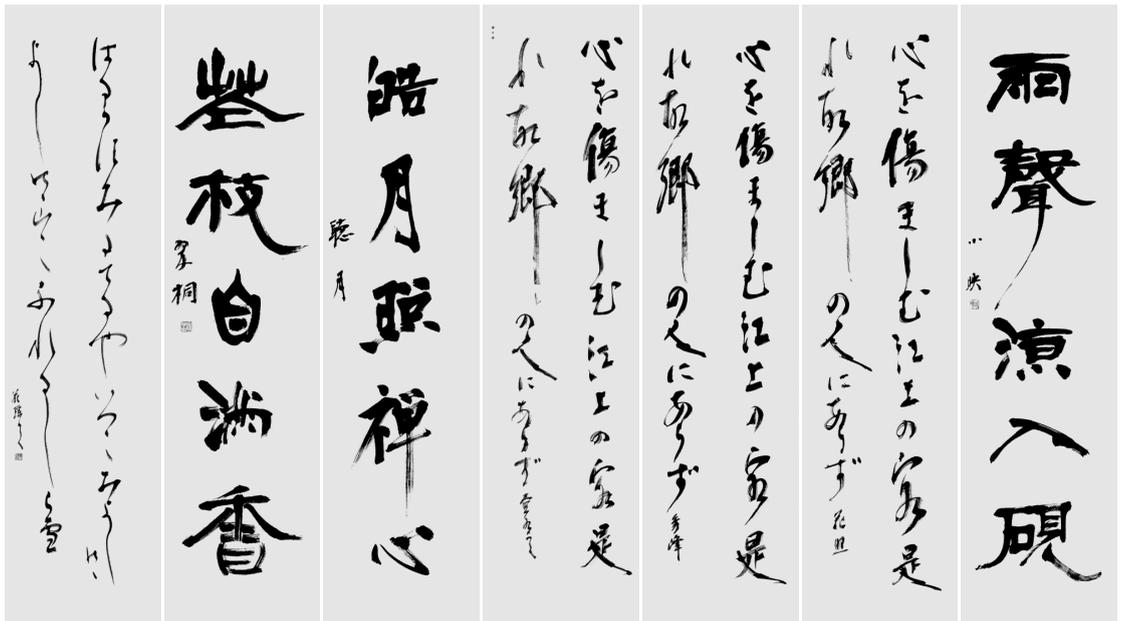


きちんとあいさつして、教室に入ってくる康旗くん。名前がとてもし上手になりました。男の子らしい堂々とした筆文字が書けるよう期待しています。

美業支部 中二 齊藤 那珂



中学生になり教科は英語が好きという那珂ちゃんは部活の後、お友達と仲良く書のお稽古を続けています。熱心に書いています。これから頑張るね。



△隷書条幅▽ 評 山口 啓山

惠 香 豪快な運筆で線の伸びやかさが無限。

涛 仙 充分な墨量で表現の豊かさ

翠 紗 堅実な作風で安定感が群を抜く。

春 海 焦点が明確で紙面に緊張感が溢れる。

小 琇 写実に徹して五文字の形の精度が見事。

辛 里 軽重・静動と両極の調和が実に良い。

西 光 タイトな造形で余分なものは一切無し。

小 映 字間の響き良く余白の美も効果的。

△条幅随意▽ 評 大賀 霞泉

鈴木花照 大胆な大小の変化と軽快なリズムがよい。

仲島秀峰 墨量豊かな線で一気に書き上げて見事。

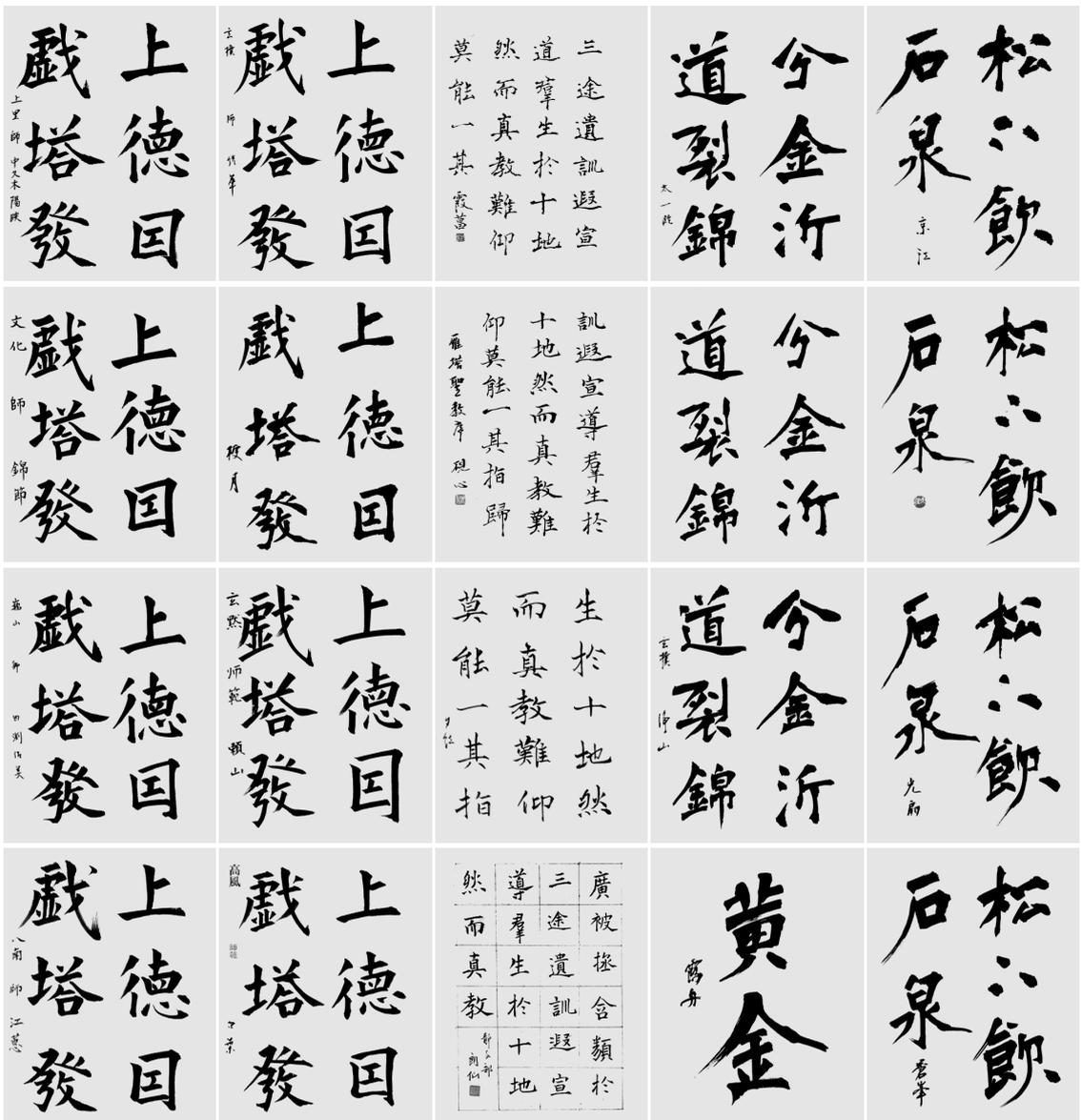
小野壺水 墨色を効かせた流麗で明朗な秀作。

△通信条幅▽ 評 大澤 梢光

倉谷聰月 字形、全体観、線質共に秀作。

塩谷翠桐 丁寧な筆致、安定感ある線が素晴らしい。

塚原花瑤 連綿に無理がなく自然な流れあり。



基本課題 評 山口 啓山

京 江 全体構成良く五文字の調和が見事。
天 遥 強靱な点画で紙面に緊張感が走る。
光 扇 表現が豊かで独自の世界を展開している。
蒼 峯 力強い構造で基本に忠実で良い。

研究課題 評 二瓶 嶽風

高橋太一 特質を見事に捉えた空間美に感動。
関澤劔山 巧みな筆使いで格調高く書き上げた秀作。
清武浄山 逆筆を効かせた左への動勢が美しい。
齊山霞舟 大胆な動きで大小の変化が効果的な作。

古典課題 評 杉山 窓影

島村霞菖 運筆が滑らかで、形も美しい。
宿谷硯心 文字の配置に緩みがなく清々しい。
金子夕紅 貫通力に優れ、一画一画丁寧な佳品。
森下朗仙 安定した線質による静けさを生んだ作。

師範部 評 柳澤 玄嶽

杉本統華 点画の切れ味が抜群で、緊張感漂う。
坂本梗月 蔵鋒を駆使し、小気味よく仕上げた。
秦 頼山 腕法を効かした、安定感に満ちた作。
山田白葉 等圧の線表現で静韻な味。余白美有り。
中久木陽映 結体の正しさは群を抜き、書的心境深い。
西 錦節 平行、等分割の基本筆法に徹した快作。
田淵佐美 丁寧な運筆。一点一画に真摯な姿勢有り。
佐藤江蕙 全体観よく墨量豊かで、安定感に満ちた作。



理 香 鋭い点画でスピード感に溢れ、軽快な作。

井上雅幸 端正な点画で、細部まで気をつかった秀作。

岸 葉草 伸びやかで、形に隙のない品格高い作。

栗原明麗 潤筆が生き、強靱で墨痕鮮やかにまとめた。

倉谷聴月 紙面の空間処理よく、揺ぎない運筆見事。

森村湖亭 冷静沈着な作風で、形と線に切れ味も有る。

杉山燁光 基本に忠実で好感の持てる秀作。

中田秀麗 腕の動きが大きく、背勢の構造も揺ぎ無い。

〈仮名〉 評 樋口玄山

暁 道 漢字と仮名をうまく調和させた。

翠 花 細い線を見せず豊かな表情がよい。

採 花 連綿の美しさを楽しむ書きっぷり。

琴 月 軽快な運筆はベテランの技。

小 琴 渴筆部の冴えが立体感を表現している。

玄 穂 潤渴の変化が自然な流れを助けている。

希 紅 行間の明るさ、響きが美しい。

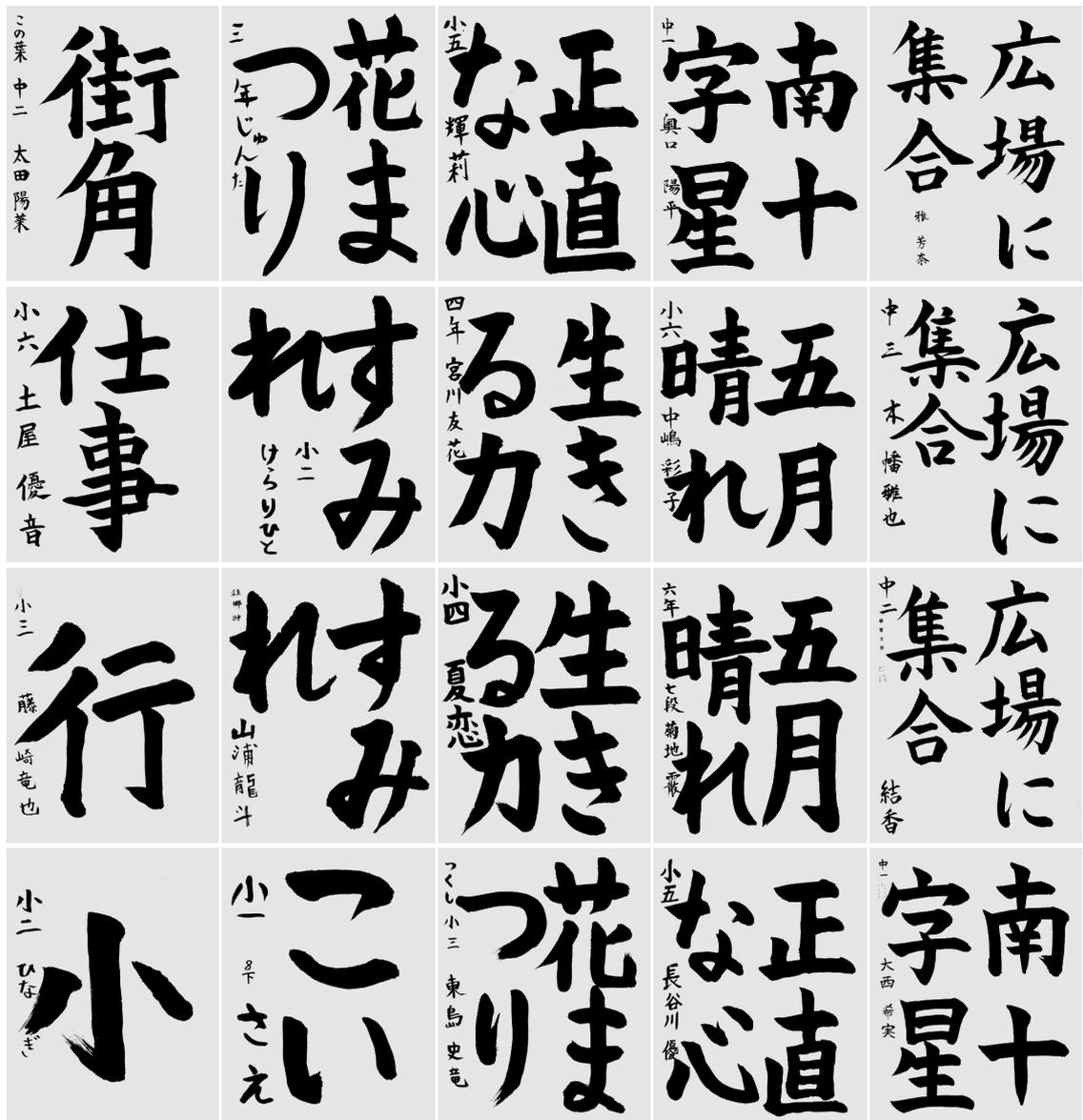
泰 薫 正確な形、正確な運筆。ごまかしがない。

静 香 動きあり、静かさあり。理想の姿。

茜 沙 落款も含め、紙面構成の確かさはみこと。

晶 山 墨色に工夫あり。温かさを感じさせる。

禾 苑 直線的な運筆に甘さも加えて独特な表現。



学生部

評 坂牛 静心

山地芳奈 手本に忠実で、余白の美しい作品。
 木幡雅也 行意を捉えた大らかな作品になった。
 武藤結香 線質がのびやか。名前も堂々としている。
 大西希実 筆使いよく、形も正確にとらえている。
 奥口陽平 墨量が豊かで丁寧な筆運びをしている。
 中嶋彩子 筆づかいが正しく、字形もよい作品。
 菊地 霰 紙面一杯にのびのびと書けた。名前も佳。
 長谷川優 落ちついた筆運びがとてもよいですね。
 篠原輝莉 のびやかで素直な書きぶりがすばらしい。
 宮川友花 一点一画、心をこめて書けていますね。
 小椋夏恋 太く力強い線。立派な作品です。
 東島史也 あたかな線よくまとめています。
 河内純汰 うでを大きくうごかしてかけましたね。
 解良侗仁 げんきがあり、なまえもじょうずです。
 山浦龍斗 かたちよく、ていねいにかかけました。
 藤崎咲衣 ふとく、どっしりとかけてりっぱです。

半紙随意

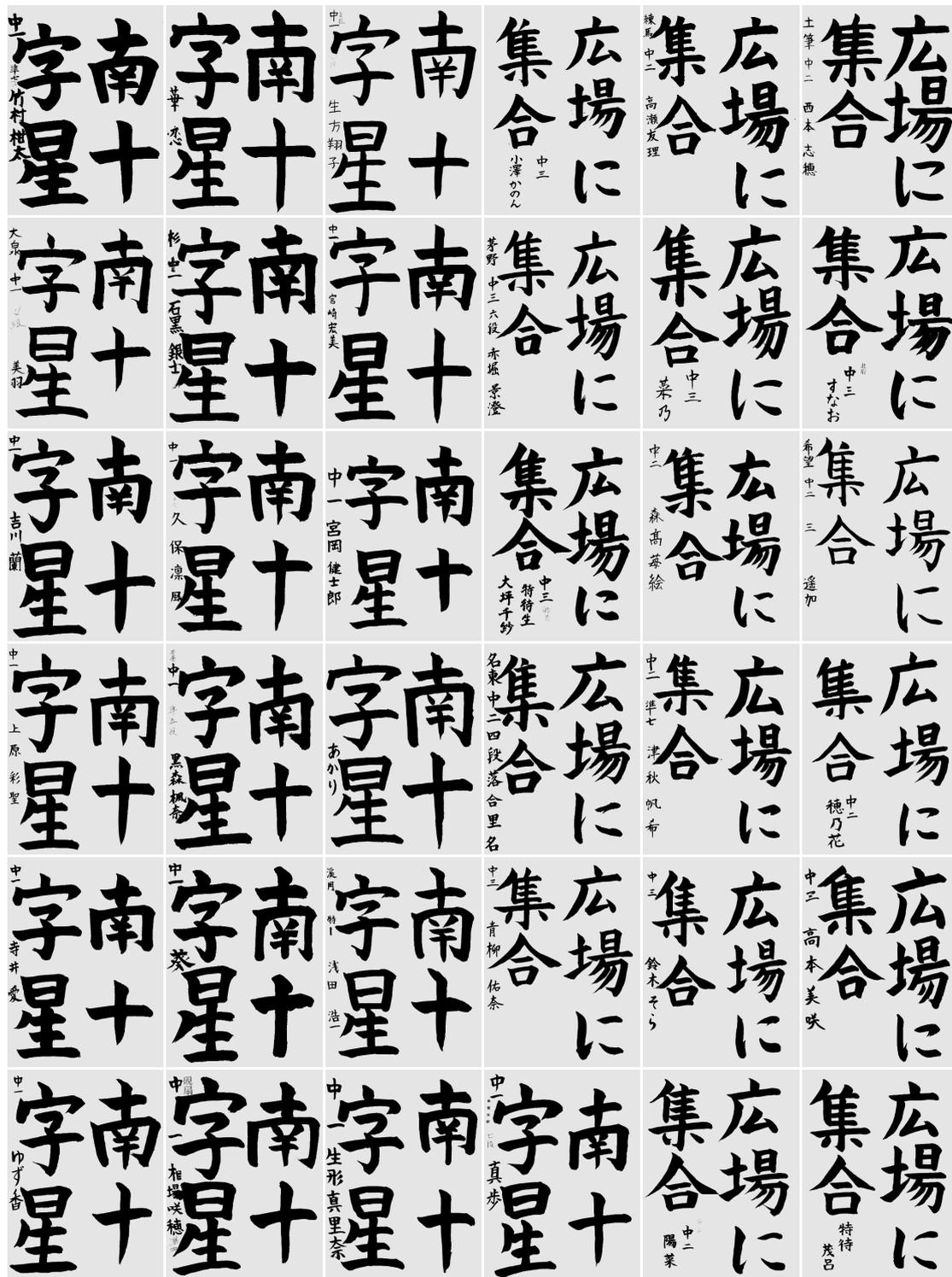
評 田中珠光

太田陽菜 線質良く、きちんとした楷書に仕上げた。
 土屋優音 起筆終筆共によく、文字の配置みごとく
 藤崎竜也 のびやかな線できちんとかけました。
 浜野ひなぎ 大きく太くどうとかけました。

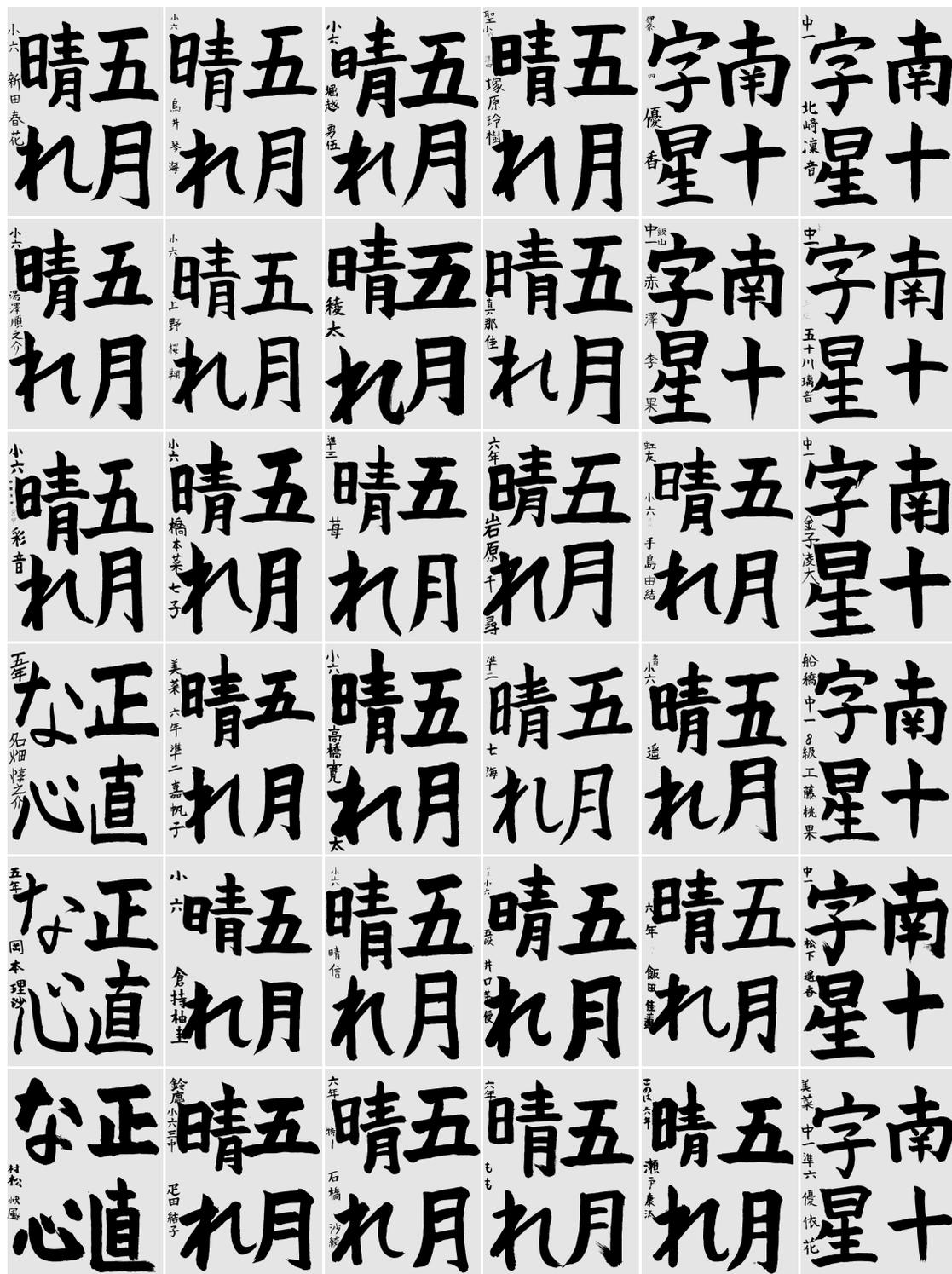
このページに掲載された人には書家会より記念の筆をさし上げます。

<p>父母の顔をよく なせしめてあげて おしよこせまふ わまれしまつ まき</p>	<p>父母の顔をよく なせしめてあげて おしよこせまふ わまれしまつ まき</p>	<p>飯田 二級 眞歩 冥符</p>	<p>汀楓 初段 植村萌亜 戲塔發</p>	<p>齋藤美悠 上徳目 戲塔發</p>	<p>八戸 五段 和光 上徳目 戲塔發</p>
<p>父母の顔をよく なせしめてあげて おしよこせまふ わまれしまつ まき</p>	<p>父母の顔をよく なせしめてあげて おしよこせまふ わまれしまつ まき</p>	<p>倚雲 伏田武美 冥符</p>	<p>上徳目 戲塔發</p>	<p>曹星 二級 百合子 上徳目 戲塔發</p>	<p>長野 五段 珠又 上徳目 戲塔發</p>
<p>父母の顔をよく なせしめてあげて おしよこせまふ わまれしまつ まき</p>	<p>父母の顔をよく なせしめてあげて おしよこせまふ わまれしまつ まき</p>	<p>若松 五段 美功 冥符</p>	<p>龍文 特二 萌音 冥符</p>	<p>玄鏡 五段 清天 上徳目 戲塔發</p>	<p>榎一 五段 盛雪 上徳目 戲塔發</p>
<p>たれそつね ならむうゐ のおくやま 倚雲 伏田武美</p>	<p>父母の顔をよく なせしめてあげて おしよこせまふ わまれしまつ まき</p>	<p>長翠 六段 中條正祥 冥符</p>	<p>高社 深海芙蓉 冥符</p>	<p>松原一実 上徳目 戲塔發</p>	<p>徳 五段 真山美 上徳目 戲塔發</p>
<p>たれそつね ならむうゐ のおくやま</p>	<p>父母の顔をよく なせしめてあげて おしよこせまふ わまれしまつ まき</p>	<p>游墨 七級 由美子 冥符</p>	<p>杉一 一段 日里久美子 冥符</p>	<p>二級 芳依 上徳目 戲塔發</p>	<p>三田 五段 山 上徳目 戲塔發</p>
<p>たれそつね ならむうゐ のおくやま</p>	<p>父母の顔をよく なせしめてあげて おしよこせまふ わまれしまつ まき</p>	<p>水代 八級 白鳥里美 冥符</p>	<p>涼心 二級 岩佐夏妃 冥符</p>	<p>八角 二級 落合早苗 上徳目 戲塔發</p>	<p>玄鏡 四段 清水清智子 上徳目 戲塔發</p>

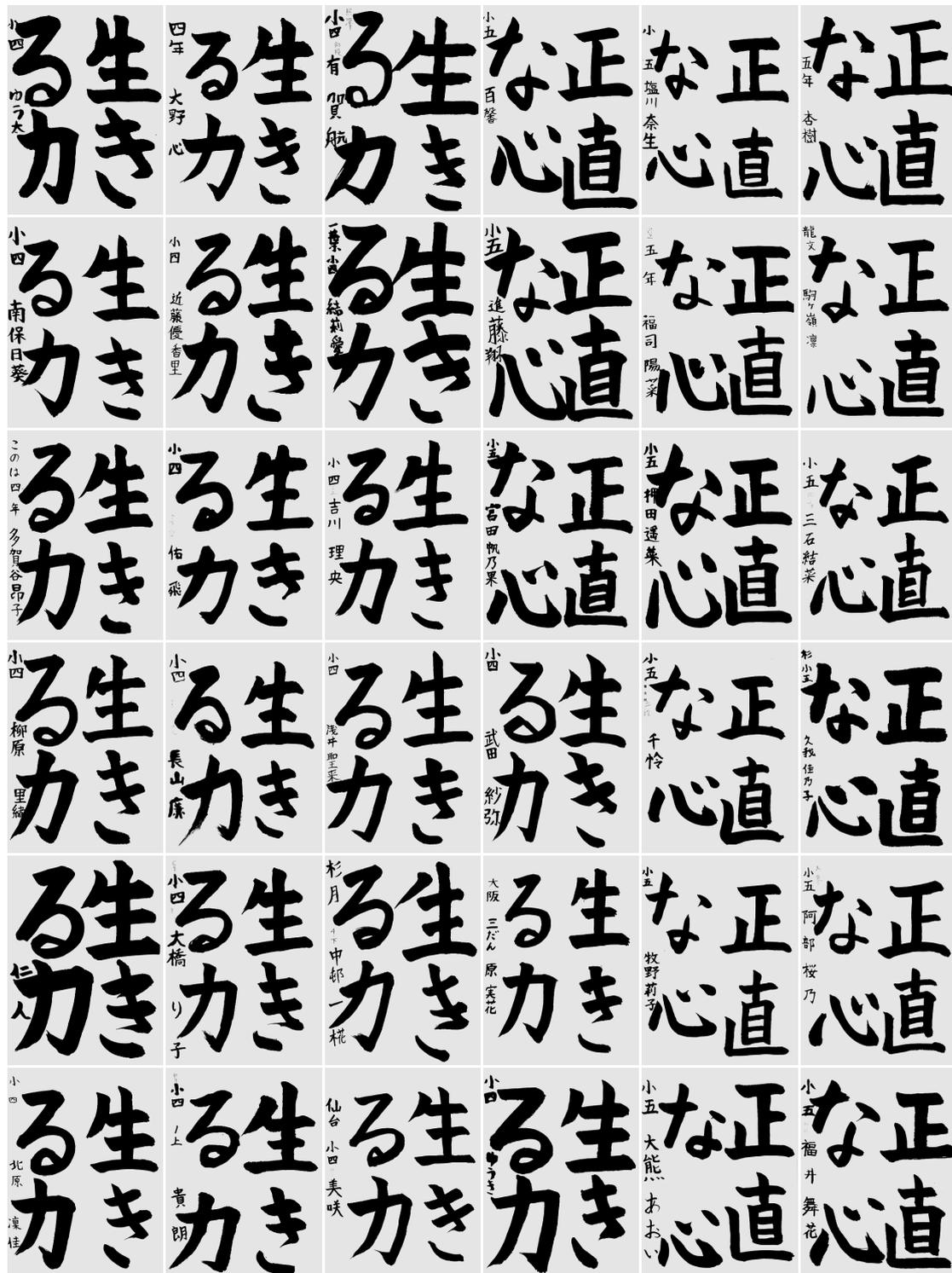
竹華	中央	華雪	倚雲	静	水代	富貴	柏心	八潮	若竹	長野	茜	西	(段位)	(仮名)	水代	游墨	長翠	若松	倚雲	飯田	凜心	杉	高社	龍文	小平	汀楓	八南	美二	珠紅	玄嶽	晏墨	大象	玄燿	長野	倭	横	大	八	(楷書)
柿沼	阿部	伏田	齊藤	蒲原	桜井	奥崎	田中	鈴木	柄澤	油科	吉田	田村	白鳥	田村	中條	村松	伏田	金田	岩佐	目黒	目黒	深海	中村	藤井	植村	落合	稲葉	望月	松原	宇留	齋藤	清水	油科	中	田	吉	八	和	
有希	泰美	綾子	美	智子	圭子	とみ	恵子	彩夏	悦子	まゆみ	富士	里美	由美	正祥	武美	真步	真妃	美優	夏	久美	久美	芙蓉	萌音	和華	萌亜	早苗	芽依	清実	美悠	美悠	満智子	まゆみ	真由	盛雪	珠久	和光			



〔毛筆〕
 〔中二・三〕 土筆 西本 志穂
 北府 佐久間 すなお
 希望 丸山 遥加
 玄嶽 岩田 穂乃花
 飯田 高本 美咲
 美二 茂呂 果恋
 練馬 高瀬 友理
 秀雪 沖山 菜乃
 有象 森高 葎絵
 瑞祥 津秋 帆希
 静 鈴木 そら
 静翠 戸田 陽菜
 水代 小澤 のん
 茅野 赤堀 景澄
 皓花 大坪 千紗
 名東 落合 里名
 高社 青柳 佑奈
 〔中一〕 眞歩
 有虹 浅田 浩一
 山愛 山口 あかり
 富士 宮岡 健士郎
 ひま 宮崎 宏美
 正桂 生方 翔子
 華雪 味本 眞歩
 〔中一〕 生形 眞里奈
 松戸 竹島 華恋
 杉馬 石黒 銀士
 練馬 久保 凜風
 青雲 黒森 楓奈
 光丘 日高 葵
 硯扇 相場 咲穂
 上尾 竹林 柑太
 大泉 小林 美羽
 玄黙 吉川 蘭
 高社 上原 彩聖
 有象 寺井 愛
 秀雪 野路 ゆず香



珠紅	神奈	サン	華雪	竹華	有穂	鈴鹿	霞墨	美菜	八潮	若竹	高社	小光	秀雪	須坂	峰	一絵	さわ	玄樸	み月	宮川	龍文	聖	この	源創	北府	虹友	飯山	伊奈	美苑	美苑	みな	湊	城彩
村松	岡本	名畑	江良	湯澤	新田	足田	倉持	関根	橋本	上野	鳥井	石橋	新居	高橋	小柴	佐藤	堀越	佐々	井口	佐藤	岩原	溝口	塚原	瀬戸	飯田	島崎	手島	赤澤	吉橋	森下	金子	五十	北崎
快風	理沙	樽之介	彩音	順之介	春花	結子	柚圭	嘉帆子	菜七子	桜翔	琴海	沙綾	晴信	寛太	苺	稜太	勇伍	木も	菜優	七海	千尋	真那佳	玲樹	康汰	佳蓮	るか	由結	李果	優依花	遙香	凌大	凜音	



たけ	倭	凜	この	有	みな	綾	若	宝	蓮	有	硯	仙	杉	竹	虹	一	照	若	大	優	玄	八	秀	霞	凜	華	中	書	若	練	大	杉	柏	龍	山	
北	盛	柳	多	南	糠	内	長	山	今	大	野	吉	中	浅	吉	魚	有	松	原	武	宮	進	福	大	岡	押	福	塩	阿	久	三	文	飯			
原	仁	里	賀	保	信	山	山	野	野	野	大	田	郎	井	川	崎	賀	悠	美	田	藤	山	熊	野	村	田	川	部	我	石	龍	泉				
凍	人	緒	谷	日	優	貴	璃	飛	香	香	心	美	一	聖	理	航	希	花	花	帆	乃	乃	乃	乃	乃	乃	乃	乃	乃	乃	乃	乃	乃	乃	乃	
佳	人	緒	子	葵	太	朗	廉	里	里	里	里	里	里	里	里	里	里	里	里	里	里	里	里	里	里	里	里	里	里	里	里	里	里	里	里	里

人、こが賢明よれ水かくなるほど
ます、く、ぼくも腰を低くして
他人うら字ほうとをみる、餘祥

木下君のパスを受け、守備の足
元に飛び込む。忘れられない初
トライになった。
木村 道

五月の連休が終わると、草
木の成長が増して、初夏の
季節となる。
新田 泰高

五月の連休が終わると、草
木の成長が増して、初夏の
季節となる。
宮川 初寧

カワセミは、川の番人と言
われ、水のきれいな所に住
んでいます。
白戸部 光俊

カワセミは、川の番人と言
われ、水のきれいな所に住
んでいます。
香斎 藤 彩華

さあ、おいし	いお
にぎりをも	てハ
イキング	グ

ありまは二三四
山はたりぎ

人、こが賢明よれ水かくなるほど
ます、く、ぼくも腰を低くして
他人うら字ほうとをみる、
大阪 洋輝 片内 珠佑

木下君のパスを受け、守備の足
元に飛び込む。忘れられない初
トライになった。
菅野 楓

五月の連休が終わると、草
木の成長が増して、初夏の
季節となる。
美奈 早葵

五月の連休が終わると、草
木の成長が増して、初夏の
季節となる。
梅田 あり

カワセミは、川の番人と言
われ、水のきれいな所に住
んでいます。
丸山 寧々

カワセミは、川の番人と言
われ、水のきれいな所に住
んでいます。
小左重 和也

さあ、おいし	いお
にぎりをも	てハ
イキング	グ

梅花 二三四
川田 いと

千曲川いざよふ波の岸ちかき宿
にのぼりつ濁り酒にのりく飲
て早枕しぼーなぐさむ
藤路 天俊

木下君のパスを受け、守備の足
元に飛び込む。忘れられない初
トライになった。
津七 実紅里

五月の連休が終わると、草
木の成長が増して、初夏の
季節となる。
山南 優音

五月の連休が終わると、草
木の成長が増して、初夏の
季節となる。
成田 あり

カワセミは、川の番人と言
われ、水のきれいな所に住
んでいます。
浅野 晃輝

さあ、おいし	いお
にぎりをも	てハ
イキング	グ

出れ 二三四
やま けい

さあ、おいし	いお
にぎりをも	てハ
イキング	グ

珠海 二三四
伶

木下君のパスを受け、守備の足
元に飛び込む。忘れられない初
トライになった。
若松 正 友俊

木下君のパスを受け、守備の足
元に飛び込む。忘れられない初
トライになった。
大田 中一
藤田 陽菜

五月の連休が終わると、草
木の成長が増して、初夏の
季節となる。
新田 泰高

五月の連休が終わると、草
木の成長が増して、初夏の
季節となる。
源関 葵空

〔硬筆〕

- 【一般】 書集 新井 谿祥
大阪 片岡 珠松
高社 深海 美優
- 【中学】 若松 川島 実佳
大象 木村 遙
有象 菅野 楓
石峯 前田実紅里
大田 藤田 陽菜
- 【小五・六】 虹友 戸田 泰高
美菜 内海 早葵
名東 山浦 優音
- 【小一・二】 山愛 紗那
練馬 安武 理輝
皓花 川田 衣音
瑞祥 稲元 伶
- 【小三・四】 雅 日下部光優
倭 丸山 寧々
中央 浅野 晃輝
華雪 斉藤 彩華
勝木 友重 和音
- 【小五・六】 湊 宮川 初寧
一絵 梅田 あり
シ 成田 あり
平 源関 葵空
- 【小一・二】 新城 菅谷 優羽
新田 泰高
源関 葵空

Main table containing names, grades, and performance details for various groups. Includes a central section for '小・中学校の部' (Elementary and Junior High School Division) with a list of names and grades.

□は写真版(昇級しない) ○は昇級(1階級昇級する) ☆は秀作(同階級で二回とると昇段する。ただし師範部は除く。)

Table with 10 columns and 15 rows of names and symbols. Each cell contains a name (e.g., 伊呂新鶴, 藤上井沼) and a symbol (e.g., 〇, △, ☆, 】). The symbols represent different categories or statuses within the organization. The names are arranged in a grid-like pattern across the rows.

支部別の発表です。個人出品は「その他」として巻末にあります。

虹友・この葉・桜木・さざなみ・さわらび・サン・山愛・杉月・シールパス・志摩・秀雪・珠紅・珠悠・小光・城彩・松聲・知床・新城・瑞祥・杉・須坂・鈴鹿・硯・青雲・正桂

Table with 10 columns and 10 rows of Japanese text, including names and symbols like circles and squares. The text is organized in a grid-like structure with various annotations.

□は写真版(昇級しない) ○は昇級(1階級昇級する) ☆は秀作(同段位で二回とると昇段する。ただし師範部は除く。)

正柱・成城・静翠・石峯・泉華・仙台・蒼穹・大家会・たけのこ・竹華・千曲・茅野・中央・月・土筆・汀楓・照澤・東陽・内藤・中野・練馬・柏心・蓮田・葉月・晴美・半田・光ヶ丘・聖

Table with multiple rows and columns containing names, grades, and symbols. The table is organized into sections by grade level (e.g., 準六, 特四, 五七, etc.) and includes various symbols like stars and circles. The names listed are members of the organization, and the symbols likely represent their status or achievements.

支部別の発表です。個人出品は「その他」として巻末にあります。

ひまわり・富貴・富士見・船橋・書之会・芙蓉第二・芙蓉第五・平成・宝春・房風会・星・洞・前原・松戸・三池・水代・美苑・みみ野・峰・宮川・宮地・雅・御代田・名東・めぐみ・八潮・倭

Main table containing names and symbols. The table is organized into columns and rows, with names written in kanji and hiragana. Symbols like stars and circles are used to denote specific categories or statuses. The names are arranged in a grid-like pattern, often with smaller text or symbols above or below them.

侯・有家・有家虹・有棟・優生・右文・横濱第二・好野・李光・龍文・綾華・凜心・麗墨・和・若竹・若葉・若松・若宮・若山・その他

Table with multiple rows and columns containing names, grades, and symbols. The table is organized into sections, with names listed in columns and their corresponding grades or symbols in rows. Symbols include circles, triangles, and squares, often with numbers inside. The names are written in kanji and some include surnames in smaller text. The table is dense and covers most of the page area.

注意 ○作品には支部名・名前・現段級位（規定作品）を必ず記入して下さい。（えんぴつ可）
その上でバーコード出品券と現段級位を一致させ、出品課題には○印をつけてください。
○学生部から一般部に出品される場合、出品券はそのまま使えます。

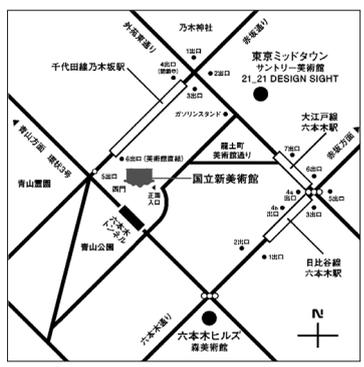
支部別の発表です。個人出品は「その他」として巻末にあります。

第57回

書象展

特別企画 俊英選抜五人展

特別コーナー 第49回全国学生書道展



会 期：2018. 6. 14(木)～6. 24(日)
 午前10時～午後6時 休館日6.19(火) 入場は午後5時30分まで
 会 場：国立新美術館 2階C、D展示室
 〒106-8558 東京都港区六本木7-22-2
 TEL. 03-6812-9921

主 催：書 象 会
 後 援：読 売 新 聞 社
 公益社団法人 全日本書道連盟

会期中、ギャラリートーク・全国学生展・講評会・支部長講習会・実技講習会を予定しています。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

定価六〇〇円 送料八二円

書象会便り

◆謙慎書道会総会

恒例の謙慎書道会総会が五月二十六日(土) 上野精養軒において開催されました。本会からの出席者は次の通りです。
 田中節山 市澤静山 内藤望山 山口啓山 柳澤玄嶽 恩田静月 来司信博
 齋藤盈月 白濱静苑 田中珠光 寺尾碩雲 中内真意 長田詠李 布下真静
 野口虹汀 林田翠山 原口華煌 藤森大節 横田小泉 渡辺華雪

◆春季昇段級試験・師範・準師範・特待生試験審査終了
 五月十八日に締め切られた標記試験の審査が、五月二十七日に終了いたしました。当番審査により、各位の昇格などが決定されました。

☆書展予告

☆桜筆会書展
 会 期 六月二十九日(金)～七月一日(日)
 会 場 文京シビックセンター一階展示室A・B (三田線春日)
 出 品 者 蕪木珠紅(本会関係)

☆第41回謙慎書道会東部展

会 期 八月三日(金)～五日(日)
 会 場 茨城県立茨城県民文化センター
 出 品 者 大澤梢光 高瀬霞山 小林皓山 渡江皎雲
 鈴木蒼舟 高瀬秀琴 結城正憲(本会関係)

◆第46回日本の書展東京展 公募臨書入選者

六月号掲載の標記入選者に洩れがありました。お詫びし訂正いたします。
 △前期▽6月14日(木)～18日(月) 桑野小瑠

平成30年度 書象会夏季合宿錬成会のご案内

期 日 八月五日(日)～六日(月) 一泊二日
 会 場 草津温泉「ホテル櫻井」
 定 員 二〇〇名
 費用 二七、〇〇〇円
 ※参加申込 書象会本部より送付の案内に従ってお申し込み下さい。

氏名	発行人 (有) 書象
	代表 上 條 節 夫
	東京都武蔵野市吉祥寺北町四一三六
	郵便番号 180-0001 電話 〇四三(五三)九七四三
	振替口座 〇〇一九〇一七一二五六九一
	振替名義 (有) 書象
	印刷所 株式会社 リンクス